

P3-76.**東京医科大学における Team-Based Learning (TBL・チーム基盤型学習) の授業展開と学生による評価**

(大学：医学教育学)

○菰田 孝行、R. ブルーヘルマンズ

荒井 貞夫、泉 美貴

(大学病院：循環器内科)

山科 章

(大学：医学教育学・大学病院：総合診療科・北海道大学医学教育推進センター)

大滝 純司

(社会人大学院4年医学教育学)

関 正康、赤石 雄

【背景】 従来型の講義形式の授業の限界から、学生主体の「能動的学習」が注目を集めている。TBLは、学生主導のチーム別討議形式によって学習を進めることにより、少人数の教員でも対応可能な、グループダイナミズムにもとづく学習方略として、注目されている。東京医科大学でも2011年から授業に取り入れている。

【目的】 東京医科大学における TBL 授業実践の結果を分析し、学生からの評価を通じて、TBL の授業展開の発展の視座を得る。

【方法】 2014年6月4日3時限、医学科4年生の臨床医学II「循環器」において、TBL形式の授業を実施した。授業者は、循環器内科の主任教授である。受講学生は、110名であった。まず、学生に、個人テスト (IRAT) (10問) を回答させた。さらに、同じ問題をチームテスト (GRAT) として出題し、チームで得点を競いながら回答させた。GRAT 終了後、授業者が回答へのフィードバックと解説講義を実施した。最後に、授業評価アンケートを匿名で実施した。

【結果】 GRAT における「チーム得点」を目的変数とした階層的重回帰分析では、「チーム構成員の最高得点」の項目が有意であった。授業評価アンケートでは、「予習をしたかどうか」の項目において「教科書をバラバラめくった程度」の項目への回答が最多であった。「これからも TBL の授業を受講したいか」の項目で、「受けてみたい」と「まあ受けてみたい」を合わせた回答者の割合は59%にのぼった。

【考察】 TBL の得点結果分析から、チーム内の成績優秀者がチーム得点を押し上げている状況が明らかになった。チームの編成を工夫し、チーム内の学習が促進されるような施策が必要であると考えられる。また、授業評価アンケート結果から、TBL を好意的に受け入れているが、予習をするまでには至らない学生の現状が明らかになった。予習を促進させ、グループダイナミズムにもとづく教えあいを促し、授業効果をさらに向上させる施策が必要であると考えられる。

P3-77.**eラーニングから得られる学習履歴データの有用性についての検討****—2014年度循環器系の例**

(大学：医学教育推進センター)

○油川ひとみ、泉 美貴、山科 章

(大学：医学教育学分野)

ブルーヘルマンズ R、泉 美貴

(大学：循環器内科学分野)

山科 章

【はじめに】 eラーニングシステム「e自主自学」を授業に使用し、得られたデータをもとに、学生支援および授業改善に利用可能か検討した。

【方法】 2014年度医学科4年生の臨床医学II循環器系の授業においてe自主自学の使用結果を調査した。使用内容は、小テスト (43回/全47回)、授業評価 (全授業)、授業資料の掲載 (全演習授業後と教員による任意での掲載)、英語の単語集・略語集の掲載、であった。e自主自学で得られた学習履歴をもとに、各学生の小テストの受験率と成績 (① 筆記試験全体の成績、② MCQ の成績、③ 記述式問題の成績)、授業評価の提出率と成績、資料閲覧率と成績 (① 筆記試験全体の成績、② 記述式問題の成績)、単語集閲覧の有無と単語問題の成績について、統計学的検討を行った。また、授業評価に記載されたコメントも調査対象とした。

【結果】 χ^2 乗検定により有意差が見られた項目には、① 小テストの受験率と MCQ の成績、② 授業評価の提出率と成績があった。弱い相関が見られたものに、① 小テストの受験率と成績、② 小テストの受験率と記述式問題の成績、③ 資料閲覧と記述